



「内からの欲求」と「外からの制約」を調和し、
苦悩の意味を変容させるなかで、幸福の総和は広がります。
その過程で重要な働きを担うのが、私たちの品性なのです。

人生に豊かで深みのある意味を付与し、
内と外の調和を図ること、変化のなか
でも立ち止まることなく、自暴自棄にな
らずに人生と向き合うことができるので
す。

次号では、苦悩の意味の変容にかかわ
る「品性」についてみてみましょう。

精神医学者ヴィクトール・フランクル
によると、私たち人類は苦悩のなかにあ
る時でも、現実を受け止め、生きる希望
を見つけて前に進む努力をしてきたとい
います。例えば、新たな物事への挑戦や、
出会いやつながりの再発見によって、出
来事の意味そのものを容れさせて、負担
を軽減できるということです。

このように、私たちは「内からの欲求」
と「外からの制約」を調和し、苦悩の意
味を変容させることで、よりいっそう幸
福を感じるのかもしれない。それが日
常の場であっても、人生の転機と思える
ほどの出来事であったとしても、自分の
人生に自分で意味づけができた時に、新
たな一歩を踏み出すことができるのでは
ないでしょうか。

モラロジー研究所の概論講座で使用するテ
キストが、平成27年4月より改訂『テキスト
モラロジー概論』となります。幸福と品性の
関係が示される第二章のうち、今月は「幸福
の実現と生きる意味の探求」について、図で
考えてみましょう。



モラロジーを楽しく、平易に学
びたい。そんな要望にお応
えして、この連載では改訂『テ
キスト モラロジー概論』の内容
を図で解説します。ご自身の学
習に、あるいは勉強会の資料と
してご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

幸福の総和を広げるために

—— 苦悩の意味を変容させる

道徳科学研究センター 教育研究室研究助手 きのしたじょうこう 木下城康

私たちが幸福になるにはどんな条件が
必要なのか、考えたことはありませんか。
果たして自分の欲求を満たした時だけが
「幸福」なのでしょう。

どうもそうではないようです。確かに
私たちは、日々の生活のなかでさまざま
な欲求を満たしながら生きています。心
理学者のアブラハム・マズローは、私た
ちの基本的な欲求を図の五段階で説明し
ています(図①から⑤)。

大切なことは、ある程度欲求が満たさ
れると次の段階に関心が移り続けること
です(図②：外向きの矢印)。欲求は自分の理
想や価値を追求し、望む姿に成長しよう
とする自己実現に向かって、生理的欲求
から順に、私たちの内側から一定の行動
へと駆り立てる原動力になっているので
す。

ところが、これらを制限するものが日
常には溢れています(図③：内向きの矢印)。
突然の病の宣告や企業の倒産など、自分
の力では対処しきれない出来事もあるで
しょう。苦悩に浸って立ち止まってしま
うこともあるかもしれません。